



おおといっ子 No.8

平成 28 年 10 月 27 日発行

何のために本を読むのか？



10 月 27 日より読書週間が始まります。

終戦まもない 1947 年（昭和 22）年、まだ戦火の傷痕が至るところに残っているなかで「読書の力によって、平和な文化国家を作ろう」という決意のもと、出版社・取次会社・書店と公共図書館、そして新聞・放送のマスコミ機関も加わって、11 月 17 日から、第 1 回『読書週間』が開催されました。そのときの反響はすばらしく、翌年の第 2 回からは期間も 10 月 27 日～11 月 9 日（文化の日を中心にした 2 週間）と定められ、この運動は全国に広がっていきました。

そして『読書週間』は、日本の国民的行事として定着し、日本は世界有数の「本を読む国民の国」になりました。

いま、電子メディアの発達によって、世界の情報伝達の流れは、大きく変容しようとしています。しかし、その使い手が人間であるかぎり、その本体の人間性を育て、かたちづくるのに、「本」が重要な役割を果たすことは変わりありません。

暮らしのスタイルに、人生設計のなかに、新しい感覚での「本とのつきあい方」をとりいれていきませんか。

『読書週間』が始まる 10 月 27 日が、「文字・活字文化の日」に制定されました。よりいっそうの盛りあがりやを、期待いたします。

これは、読書推進運動協議会からの抜粋です。ここで、「何のために本を読むのか？」と自分に問いかけてみました。正直、自分は小説等を読むのはそんなに好きではありません。子供の頃は図鑑や伝記に親しんでいたぐらいで、読書感想文が宿題に出たときはとても苦痛でした。でも、専門書から漫画に至るまで、本と離れることはありませんでした。それはなぜでしょう。なかなかうまく言い表すことができません。ある日、なるほどという文章に出会いました。

趣味が読書だというと、「何のために本を読むのか？」と聞かれて困ることがある。面白いから読むのである。無理やり知性と結びつける必要などない。だけど、それでは納得してくれないことがある。あえて、理由を述べるなら、誰かが真剣に考えたことを知ることができるという大きな利点がある。先人達が人生をかけて得た、知識や技術や経験を知ることができる。僕達は読書によって、世界の歴史を続きから始めることができる。文化を継承し、次に繋げることができるのである。

そう、その通り。なんとうまく言い表しているのだろう。実は、この文章はコーヒーのペットボトルのパッケージに載っていたものなのです。いろんな所に、出会いがあるものです。文章との出会いは実は、人と人との出会いと同様にとっても自分に大切なことかも知れませんね。

皆さんにもいい出会いがありますように・・・

学習発表会



心を一つに
笑顔で届けよう！
おとりっ子の最高の姿！！

ファイア・パーク



防火・消火体験で
守ろう自分の命・地域の安全！！